



平成23年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年1月7日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 パルコ

コード番号 8251 URL <http://www.parco.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表執行役社長 (氏名) 平野 秀一

問合せ先責任者 (役職名) 専務執行役財務統括担当 (氏名) 小嶋 一美

TEL 03-3477-5791

四半期報告書提出予定日 平成23年1月12日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年2月期第3四半期の連結業績(平成22年3月1日～平成22年11月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年2月期第3四半期	194,149	0.8	6,522	△0.4	6,115	△4.9	3,041	△5.2
22年2月期第3四半期	192,589	—	6,551	—	6,433	—	3,208	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年2月期第3四半期	36.92	34.69
22年2月期第3四半期	38.95	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年2月期第3四半期	232,835	80,358	34.5	975.17
22年2月期	187,093	78,657	42.0	954.52

(参考) 自己資本 23年2月期第3四半期 80,333百万円 22年2月期 78,632百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年2月期	—	8.00	—	8.00	16.00
23年2月期	—	8.00	—		
23年2月期 (予想)				8.00	16.00

(注)当四半期における配当予想の修正有無 無

3. 平成23年2月期の連結業績予想(平成22年3月1日～平成23年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	264,000	1.1	8,700	1.1	8,300	△3.0	4,200	2.2	50.98

(注)当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他（詳細は、【添付資料】6ページ「2. その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無

新規 一社（社名 _____）、除外 一社（社名 _____）
（注）当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有

（注）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

（注）「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	23年2月期3Q	82,475,677株	22年2月期	82,475,677株
② 期末自己株式数	23年2月期3Q	96,646株	22年2月期	96,305株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	23年2月期3Q	82,379,214株	22年2月期3Q	82,379,703株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は実施中でありませ

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が本資料の発表日現在において入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて記載しております。実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項は【添付資料】5ページ「(3) 連結業績予想に関する定性的情報」をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	5
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	5
2. その他の情報	6
(1) 重要な子会社の異動の概要	6
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	6
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	6
3. 四半期連結財務諸表	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 継続企業の前提に関する注記	12
(5) セグメント情報	12
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	13

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間（平成22年3月1日から平成22年11月30日まで）におけるわが国経済は、企業収益の改善や設備投資の持ち直し等一部に緩やかな回復は見られたものの、円高の進行や海外景気の下振れ懸念等により、依然景気の先行きは不透明な状況にあります。個人消費につきましても、政府の景気対策等による高額品の稼働等はありませんでしたが、雇用情勢への不安等を背景に慎重な消費傾向が継続しております。

このような環境の下、当社グループは、当期を平成22年8月25日に発表いたしました中期経営計画（平成22～24年度）の初年度として、3つの事業戦略（事業戦略1「既存店舗の業態革新 ～強固な収益基盤作り～」、事業戦略2「国内、海外への都市型商業の拡大 ～次なる成長への事業基盤作り～」、事業戦略3「関連事業、新規事業の展開加速 ～事業領域の拡充～」）とそれを支える経営基盤の強化に取り組んでまいりました。

この結果、当社グループの業績は、新規店福岡パルコの売上寄与や既存店の改装・運営改革の進捗による売上の堅調推移により、売上高は1,941億49百万円（前年同期比100.8%）となりました。営業利益は65億22百万円（前年同期比99.6%）、経常利益は61億15百万円（前年同期比95.1%）、また、心齋橋パルコ業態転換に伴う損失等の特別損失を7億47百万円計上しました結果、四半期純利益は30億41百万円（前年同期比94.8%）となりました。

当第3四半期連結累計期間における事業の種類別セグメントの状況は次のとおりです。

<ショッピングセンター事業>

ショッピングセンター事業の売上高は1,816億50百万円（前年同期比100.1%）、営業利益は60億54百万円（前年同期比96.1%）となりました。

株式会社パルコにおきましては、平成22年3月に新規オープンいたしました福岡パルコの寄与と、前中期経営計画中に新規オープンいたしました静岡パルコ（平成19年3月オープン）、浦和パルコ（平成19年10月オープン）、仙台パルコ（平成20年8月オープン）の好調継続並びに既存店での改装効果により、店舗売上高合計は前年同期を上回りました。

福岡パルコは、ビューティー・雑貨・食品・飲食等の比率を高めて、買い易く、バラエティのある商品構成にしたことや、地元と連携した地域密着型の宣伝、ITツールを活用した販促等が奏功して幅広い客層が来店し、売上高・客数共に計画を大きく上回り好調に推移いたしました。また、平成22年11月には、福岡市民の皆様からの推薦により、福岡の街の魅力を創り出している建物や街並みを表彰する「福岡市 都市景観賞」を受賞いたしました。

パルコ既存店舗におきましては、中期経営計画に則り、店舗を商圈特性別に、それぞれのターゲット客層に向けて最適化させるべく、改装を推進し、企画・宣伝・販促手法の改革を行っております。

営業企画につきましては、セール企画に加え<PARCOカード>企画やシーズン商品提案企画を重層的に展開することで購買意欲を喚起し、併せて動員催事や店頭食品催事等を開催する事で、顧客のみならずフリー客の来店を促し売上を拡大いたしました。また、各店の改装リニューアルや周年祭、地元のお祭りやプロスポーツ応援セール等のモチベーションに合わせて、企画内容や期間設定を柔軟に対応する等、店舗や商圈の特性に応じたきめ細かな運営をいたしました。

主な秋の営業企画は次のとおりです。

『THANKS WEEK』（9月17日～26日＊基本日程）

記録的残暑の影響を鑑み、秋物衣料品の稼働時期に対応して<PARCOカード>オフの期間を後ろ倒しし、『<PARCOカード>5%OFF』（9月17日～10月11日）、『永久不滅ポイント2倍』（9月17日～20日）、『お得なポイント交換キャンペーン』（9月17日～26日）等の<PARCOカード>企画と併せて実施いたしました。

『パルコ冬フェス2010』（11月19日～28日＊基本日程）

従来の<PARCOカード>顧客を中心としたイベント型セール企画を刷新し、タイトルの変更や期間の拡大をいたしました。さらにイベントやサービスの販促企画を各店で拡充しフリー客の獲得に繋げました。

宣伝・販促につきましては、地元の行政・商店街・近隣商業施設等と連携した地域密着型の催事やイベントを強化し、また店舗特性に合わせ『ガンブラEXPO JAPAN tour』等の大型動員催事の巡回（仙台、札幌、名古屋）や外部企業とのタイアップによるクリスマス演出（渋谷）等を実施し、集客と売上に繋げました。

さらに、顧客との新しいコミュニケーションツールとしてデジタルツールを積極的に活用し、イベントのWeb中継や企画内容をツイッターやショップブログで告知する等、リアルタイムの情報を発信することで店舗への動員を強化いたしました。

改装につきましては、客層・客数の拡大と買い回り波及効果をテーマに、各店舗の商圈特性に合わせ、都心店舗グループでは、トレンドファッションに加え、化粧品や雑貨等の導入により館内の回遊性・滞留性を高め、関東店舗グループでは、足元商圈を意識したファミリーファッションや大型雑貨の導入、来店頻度向上に繋がる食品ゾーンの刷新等を実施いたしました。これにより、当期改装規模は全店計で386区画、約40,000㎡、当該区画の売上高前年同期比は118.9%と大きく伸長いたしました。

主な秋の改装店舗は次のとおりです。

池袋パルコ 春の改装でカップル客対応強化をテーマに、本館6階を中心にレディース・メンズファッション複合テナントや雑貨テナントを導入したのに続き、9月には、本館地下フロアを中心に、旬のレディースファッションの池袋エリア初出店テナントを導入し、また9月から11月にかけて、本館3階の核テナントであるセレクトショップを最新型の店舗に全面改装することで、ファッション情報発信力を高めました。さらに、10月には別館P[^] PARCO（ピーダッシュパルコ）の信託受益権（固定資産）を取得いたしました。浦和パルコ同様、施設の所有・運営・管理を一元化することで、質の高く効率的な施設運営を行い、今後の改装計画をより機動的に推進してまいります。

札幌パルコ 駅前と大通地区とを結ぶ地下通路の来春完成を見据え、9月に、高感度ファッション情報発信と商品バラエティ拡充による客層の拡大をテーマに、35周年改装を実施いたしました。地下街からの導入口となる地下2階には、身の回り・雑貨・化粧品を集積してフロアを全面的に刷新し、1階には有力レディース複合ショップを展開して新たなファッション提案を実施し、ビル全体のイメージアップを図りました。

浦和パルコ 平成22年3月に信託受益権（固定資産）を取得し、全館の大規模リニューアルを推進しております。当期は中層階を中心に、アウトドアスポーツ・ファミリーファッション・サービス機能アイテムを導入して新たな客層を呼び込むと共に、10月には幅広い層の顧客を持つ大型趣味雑貨テナントを誘致したことで入館客数が大幅に増加し、既存店舗との買い回り相乗効果により全館売上は計画を大きく上回りました。

調布パルコ 地下1階の食品フロアを環境の刷新も含めて、10年ぶりに全面的に改装いたしました。春には先行して、デイリー需要の高いグロスアリー・惣菜ゾーンに新規食品スーパー等を導入し、続いて9月には銘店ゾーンを改装し、食品集客による全館への買い回り波及効果を高めました。

津田沼パルコ 10月にB館2階に大型ファミリーカジュアル衣料品を導入したことで、幅広い客層が来店し、全館の客数拡大と活性化に繋がりました。

また、「既存店舗の業態革新」の一環として、渋谷パルコ「ZERO GATE（ゼロゲート）」及び心齋橋パルコにつきましては、都市部における小型商業開発の新たな事業モデルとして業態転換させることを決定いたしました。これにより、投資効率の良い小規模物件の効率的な運営手法の確立を目指します。

エンタテインメント事業につきましては、演劇では、『カーディガン』が追加公演も含め完売するなど好調であった他、『美輪明宏音楽会』が東京・地方公演ともに堅調に推移いたしました。制作業務を受託している神奈川芸術劇場につきましても、平成23年1月の柿落とし公演『金閣寺』の先行発売チケットが完売するなど順調な滑り出しを見せております。また、出版関連では『傷だらけの店長 それでもやらねばならない』『ポスターを貼って生きてきた。就職もせず何も考えない作戦で人に馬鹿にされても平気で生きていく論』等が新聞各紙の書評欄に取り上げられ話題となりました。

海外事業につきましては、平成22年3月シンガポールにPARCO Marina Bay（パルコ・マリーナ・ベイ）をオープンいたしました。人気の日系レストランを中心に日本商材への関心が高いことから、食品からキャラクター雑貨まで幅広く日本の商品を紹介する『PARCO JAPAN FESTIVAL』（10月8日～24日）等の販促企画を実施し、集客とマーケットへの浸透強化を積極的に行っております。

また、中国での事業展開につきましては、複数の現地パートナー候補企業との折衝を具体的に進めております。

<専門店事業>

専門店事業の売上高は109億37百万円（前年同期比90.1%）、営業利益は75百万円（前年同期比150.0%）となりました。

（注）前年同期の売上高・営業利益には当社の連結子会社でありました株式会社パームガーデンの実績（売上高14億18百万円、営業損失38百万円）を含んでおります。同社は調布パルコ、NosVos by PARCO（ノボ・バイ・パルコ）で展開していた直営店舗事業から平成22年2月28日に撤退いたしました。

株式会社ヌーヴ・エイにつきましては、TiCTAC（チックタック）事業（時計専門店）とローズマリー事業（化粧品・化粧雑貨専門店）が牽引し、全体で売上高・営業利益ともに前年同期を上回りました。当期は新規12店舗の出店（内パルコ外10店舗）と4店舗の改装及び3店舗の退店を行い、当第3四半期末現在145店舗体制となっております。

TiCTAC事業は、パルコ外を含め新規5店舗を出店し、前年度スタートのEC（イーコマース）も順調に売上を拡大いたしました。商品では、主力ブランドの堅調に加え、大きく伸長しておりますオリジナルブランド・新規ブランドが高稼働し好調を支えました。

ローズマリー事業は、パルコ外に新規2店舗を出店し、いずれも好調に推移いたしました。

一方、社会貢献活動も継続的に取り組んでおり、TiCTAC店舗での腕時計の下取りや修理キャンペーン（『もったいないウォッチエクステンジ！』（下取り）10月1日～31日実施、『ウォッチホスピタル』（修理）10月22日～11月17日実施）に加え、新たに、コレクターズ店舗、アンナベール店舗においては、『バッグ・財布下取りキャンペーン』を9月10日～10月11日に実施し、サーマルリサイクル（燃焼時に発生する熱エネルギーを再利用しCO2削減に繋げるリサイクル）に協力いたしました。

また、「ピンクリボン活動（乳がん検診の推進活動）」につきましては、ローズマリー、アンナベールに加え10月からはTiCTACの店舗も参画し、10月1日～12月31日の期間に『ピンクリボンキャンペーン』として、チャリティ商品の販売やリーフレットの配布を行いました。

<総合空間事業>

総合空間事業の売上高は146億73百万円（前年同期比110.8%）、営業利益は3億49百万円（前年同期比264.0%）となりました。

株式会社パルコスペースシステムズにつきましては、福岡パルコの新規オープン関連工事や浦和パルコを含むパルコ既存店舗改装工事とそれに伴うメンテナンス業務等の工事受注の増加に加え、大型商業施設の電気工事を含む構造改善工事等の外部工事受注が寄与し、売上高・営業利益共に前年同期を大きく上回りました。

外部工事の拡販におきましては、環境負荷低減に配慮したオリジナル照明器具「P'es Lighting（ピースライティング）」を軸にした照明デザイン設計と電気工事から導入後のメンテナンスまでを含めた複合的な提案が、競合比較において強みとなり、照明器具の売上伸長と共に工事受注の拡大に繋がっております。

<その他の事業>

その他の事業の売上高は4億18百万円（前年同期比51.9%）、営業利益は3百万円（前年同期比15.9%）となりました。

（注）前年同期の売上高・営業利益には当社の連結子会社でありました株式会社ホテルニュークレストンの実績（売上高3億92百万円、営業利益12百万円）を含んでおります。当社グループで行ってございましたホテル事業につきましては、同社の全株式売却を含む事業譲渡を行い、平成21年6月1日に直営事業から撤退いたしました。

株式会社パルコ・シティにつきましては、Web事業（Webサイト制作・運営業務やコンサルティング業務）が、大型サイトリニューアルや外部受注を拡大した他、パルコ内では福岡パルコオープンや宣伝販促企画（ブログ、ツイッター企画）の導入サポート、渋谷パルコ・池袋パルコの店舗ホームページリニューアルなどの受注により好調に推移いたしました。また、11月には、新たな収益拡大策として、パルコグループが持つ大手アパレル企業とのネットワークを活用し、「ファッション業界」及び「ファッションビル」での求人情報を専門としたモバイル求人サイト「ショップナビ（<http://shopsnavi.com>）」を立ち上げました。

一方、EC（イーコマース）事業では、「パルコミュージアムショップ」等でリアル店舗との連携を強化し、自社ECでの取扱高を伸長させると同時に、パルコ各店での売上や集客にも貢献いたしました。また、ECサイトの顧客・テナント双方の操作性・機能性を向上させるべく、9月より新システムに移行いたしました。これを機にシステム・在庫連携等の機能を活かして有力新規テナントの導入を推進し、さらなる売上の拡大を目指してまいります。

（注）事業の種類別セグメント別の業績における売上高には、営業収入が含まれております。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(資産、負債及び純資産の状況)

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比較して457億41百万円増加し、2,328億35百万円となりました。主な要因は、浦和パルコ及び池袋パルコの別館であるP[^]PARCO（ピーダッシュパルコ）の信託受益権（固定資産）の取得による固定資産の増加などによるものであります。当第3四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末と比較して440億41百万円増加し、1,524億77百万円となりました。主な要因は、有利子負債の増加などによるものであります。純資産は、前連結会計年度末と比較して17億円増加し、803億58百万円となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第3四半期連結会計期間末では、現金及び現金同等物は前連結会計年度末と比較して72億53百万円増加し162億76百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益53億89百万円に非資金項目となる減価償却費や特別損益項目等を調整し95億23百万円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、408億8百万円の支出となりました。これは、主に浦和パルコ及び池袋パルコの別館であるP[^]PARCO（ピーダッシュパルコ）の信託受益権（固定資産）の取得による支出などによるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、385億68百万円の収入となりました。これは、主に浦和パルコの信託受益権（固定資産）の取得に伴う借入金の増加及び新株予約権付社債の発行などによるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成23年2月期の通期連結業績予想につきましては、平成22年4月7日に発表いたしました連結業績予想から修正は行っておりません。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

当第3四半期連結会計期間において、重要な子会社の異動はありません。

なお、前連結会計年度において連結子会社でありました株式会社パームガーデンは、第1四半期連結会計期間末において解散決議を行い、四半期連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であるため連結の範囲から除外しております。同社は当第3四半期連結会計期間において清算を完了しております。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

(簡便な会計処理)

①固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

②繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるので、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理)

①税金費用の計算

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法によっております。

なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

完成工事高及び完成工事原価の計上基準の変更

請負工事に係る収益の計上基準については、従来、工事完成基準を適用しておりましたが、「工事契約に関する会計基準」(企業会計基準委員会 平成19年12月27日 企業会計基準第15号)及び「工事契約に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準委員会 平成19年12月27日 企業会計基準適用指針第18号)を第1四半期連結会計期間より適用し、第1四半期連結会計期間に着手した工事契約から、当第3四半期連結会計期間末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。

これによる損益に与える影響はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年11月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年2月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	15,976	9,023
受取手形及び営業未収入金	11,767	9,821
有価証券	400	—
商品及び製品	2,816	2,424
仕掛品	315	650
原材料及び貯蔵品	49	44
その他	6,126	4,199
貸倒引当金	△6	△17
流動資産合計	37,445	26,146
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	121,434	115,953
減価償却累計額	△71,215	△68,871
減損損失累計額	△1,118	△1,138
建物及び構築物(純額)	49,100	45,943
信託建物及び構築物	16,898	—
減価償却累計額	△570	—
信託建物及び構築物(純額)	16,327	—
機械装置及び運搬具	1,368	1,360
減価償却累計額	△918	△836
機械装置及び運搬具(純額)	449	523
信託機械装置及び運搬具	17	—
減価償却累計額	△0	—
信託機械装置及び運搬具(純額)	16	—
その他	5,124	4,894
減価償却累計額	△3,781	△3,737
減損損失累計額	△64	△73
その他(純額)	1,279	1,084
信託その他	134	—
減価償却累計額	△15	—
信託その他(純額)	118	—
土地	45,208	45,208
信託土地	19,371	—
建設仮勘定	5	3,691
有形固定資産合計	131,878	96,451
無形固定資産		
借地権	10,949	10,949
その他	750	829
無形固定資産合計	11,699	11,779

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年11月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年2月28日)
投資その他の資産		
投資有価証券	4,692	4,676
敷金及び保証金	43,338	44,834
その他	4,025	3,441
貸倒引当金	△245	△235
投資その他の資産合計	51,811	52,716
固定資産合計	195,389	160,947
資産合計	232,835	187,093
負債の部		
流動負債		
支払手形及び営業未払金	21,785	17,637
短期借入金	20,851	9,784
未払法人税等	1,351	1,151
引当金	1,227	1,268
その他	11,081	10,548
流動負債合計	56,297	40,389
固定負債		
社債	2,500	3,000
新株予約権付社債	15,000	—
長期借入金	39,114	24,703
引当金	1,531	1,610
受入保証金	37,648	38,494
その他	385	238
固定負債合計	96,179	68,046
負債合計	152,477	108,435
純資産の部		
株主資本		
資本金	26,867	26,867
資本剰余金	27,528	27,528
利益剰余金	26,041	24,317
自己株式	△60	△60
株主資本合計	80,375	78,652
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	108	99
為替換算調整勘定	△150	△119
評価・換算差額等合計	△42	△19
少数株主持分	24	25
純資産合計	80,358	78,657
負債純資産合計	232,835	187,093

(2) 四半期連結損益計算書
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年3月1日 至平成21年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年3月1日 至平成22年11月30日)
売上高	192,589	194,149
売上原価	163,246	165,356
売上総利益	29,342	28,793
営業収入	1,985	2,126
営業総利益	31,327	30,919
販売費及び一般管理費	24,776	24,396
営業利益	6,551	6,522
営業外収益		
受取利息	61	59
受取配当金	47	43
雑収入	282	308
営業外収益合計	392	412
営業外費用		
支払利息	500	738
雑支出	8	80
営業外費用合計	509	818
経常利益	6,433	6,115
特別利益		
投資有価証券売却益	31	—
貸倒引当金戻入額	6	1
その他	3	19
特別利益合計	42	21
特別損失		
固定資産除却損	147	374
減損損失	339	18
店舗閉鎖損失	356	266
事業再編損	107	14
その他	12	73
特別損失合計	964	747
税金等調整前四半期純利益	5,511	5,389
法人税等	2,303	2,348
少数株主損失(△)	△0	△0
四半期純利益	3,208	3,041

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成21年3月1日 至 平成21年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年3月1日 至 平成22年11月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	5,511	5,389
減価償却費	4,167	4,921
減損損失	339	18
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△5	△2
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△500	△442
返品調整引当金の増減額 (△は減少)	0	△1
単行本在庫調整引当金の増減額 (△は減少)	20	14
販売促進引当金の増減額 (△は減少)	15	24
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	114	123
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	1	△13
店舗閉鎖損失	356	266
受取利息及び受取配当金	△109	△103
支払利息	500	738
固定資産除売却損益 (△は益)	41	102
投資有価証券売却損益 (△は益)	△31	—
事業再編損失	107	14
売上債権の増減額 (△は増加)	△1,504	△1,945
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△583	△61
仕入債務の増減額 (△は減少)	3,355	4,148
その他の資産・負債の増減額	1,727	△756
その他	△98	△16
小計	13,425	12,419
利息及び配当金の受取額	109	103
利息の支払額	△495	△647
店舗閉鎖に伴う支払額	△2,007	—
事業再編による支出	—	△219
法人税等の支払額	△2,127	△2,133
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,904	9,523
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	—	△200
有価証券の売却による収入	—	100
有形固定資産の取得による支出	△5,135	△40,147
有形固定資産の売却による収入	195	1
投資有価証券の取得による支出	△1	△0
投資有価証券の売却による収入	34	—
敷金及び保証金の差入による支出	△108	△2,016
敷金及び保証金の回収による収入	2,453	2,843
受入保証金の増減額 (△は減少)	△1,896	△675
その他	△225	△713
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,683	△40,808

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成21年3月1日 至 平成21年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年3月1日 至 平成22年11月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	414	△1,733
長期借入れによる収入	—	32,000
長期借入金の返済による支出	△2,389	△4,789
新株予約権付社債の発行による収入	—	14,945
社債の償還による支出	△500	△500
自己株式の純増減額 (△は増加)	△0	△0
配当金の支払額	△1,318	△1,318
その他	△6	△36
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,799	38,568
現金及び現金同等物に係る換算差額	9	△30
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	430	7,253
現金及び現金同等物の期首残高	11,080	9,023
現金及び現金同等物の四半期末残高	11,510	16,276

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

前第3四半期連結累計期間(自平成21年3月1日至平成21年11月30日)

	ショッピング センター 事業 (百万円)	専門店事業 (百万円)	総合空間 事業 (百万円)	その他の 事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	181,456	5,142	7,420	555	194,574	—	194,574
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	50	6,999	5,826	249	13,126	(13,126)	—
計	181,506	12,141	13,247	805	207,701	(13,126)	194,574
営業利益	6,302	50	132	24	6,509	42	6,551

(注) 1 事業区分の方法…………… グループ内の事業展開に基づき区分しております。

2 各事業区分の主要な内容

- (1) ショッピングセンター事業…………… ショッピングセンターの開発、経営、管理、運営
- (2) 専門店事業…………… 衣料品・雑貨等の販売
- (3) 総合空間事業…………… 内装工事の設計及び施工、清掃・保安警備・設備保全等のビルメンテナンス
- (4) その他の事業…………… インターネット関連事業、ホテル等の経営

3 売上高には、営業収入が含まれております。

当第3四半期連結累計期間(自平成22年3月1日至平成22年11月30日)

	ショッピン グセンター 事業 (百万円)	専門店事業 (百万円)	総合空間 事業 (百万円)	その他の 事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	181,650	5,527	8,935	161	196,275	—	196,275
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	5,409	5,738	256	11,404	(11,404)	—
計	181,650	10,937	14,673	418	207,679	(11,404)	196,275
営業利益	6,054	75	349	3	6,483	38	6,522

(注) 1 事業区分の方法…………… グループ内の事業展開に基づき区分しております。

2 各事業区分の主要な内容

- (1) ショッピングセンター事業…………… ショッピングセンターの開発、経営、管理、運営
- (2) 専門店事業…………… 衣料品・雑貨等の販売
- (3) 総合空間事業…………… 内装工事の設計及び施工、清掃・保安警備・設備保全等のビルメンテナンス
- (4) その他の事業…………… インターネット関連事業

3 売上高には、営業収入が含まれております。

[所在地別セグメント情報]

前第3四半期連結累計期間(自平成21年3月1日至平成21年11月30日)及び
当第3四半期連結累計期間(自平成22年3月1日至平成22年11月30日)

全セグメントの売上高の合計に占める「本邦」の割合が、いずれも90%を超えているため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

[海外売上高]

前第3四半期連結累計期間(自平成21年3月1日至平成21年11月30日)及び
当第3四半期連結累計期間(自平成22年3月1日至平成22年11月30日)

海外売上高が、いずれも連結売上高の10%未満のため、海外売上高の記載を省略しております。

- (6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。